

おいでなんし茂田井間の宿保全・活性化事業（その2）

取組に至る背景・事業の目的

- 中山道の往時の姿を残す「茂田井間の宿」は立科町大字茂田井及び佐久市茂田井の両区に位置し、近年は、過疎化が進み空家が見られるところであるが、近年、中山道を歩く旅人が増加し当宿への来訪者も増加している。
- 両区民で構成される茂田井区運営協議会は、平成 21 年度に地域発 元気づくり支援金を活用して宿内案内看板、ベンチ及びパンフレットの作成等を実施した。そこで、来訪者へのおもてなしのための環境整備を一層図るため、両区民の協働により景観に配慮した宿内整備等を行い、魅力ある町並みを維持し、活気あるまちづくりを進めることとした。



【一里塚】



【バリアフリートイレ】

事業内容

- 両区民の協働作業により宿内の整備を行った。
 - ・ 荒廃していた一里塚跡地の整備
 - ・ 地元間伐材を使用した来訪者向けの環境整備
バリアフリー公衆トイレ、花台6基、ベンチ6脚、パンフレット配布ボックス2基
- 住民学習会に使用するため、古絵図4枚の修復を行った。



【パンフレット配布ボックス】

事業効果

- 平成 21 年度の取組に加えて、来訪者をもてなすための環境整備が一層なされ、好評を得ている。
- 住民学習会の開催により、地域の成り立ちや町並みの保存・維持の必要性について住民の理解が深まった。
- 隣接する芦田宿（立科町 町区）でも同様の取組が実施された。
- 佐久市・立科町の行政の枠組みを超えた両区民の協働作業により図られた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今後も景観を維持しながら区民が生活しやすい環境づくりに努め、区民参加による伝統的な行事の掘り起こし等を通じて集落の活性化を図る。
- 来訪者への心のこもったおもてなしを継続する。



【ウォーキングイベントへの協力】

【選定のポイント】

中山道を歩く来訪者をもてなすための環境が整備されるなど、立科町の中山道を歩く事業との連携や、近隣の芦田宿で同様の取組が実施されるなど波及効果も見られた。行政の枠組みを越えた、地域の結び付きによる地域活性化の取組は、特筆すべきところである。

団体名	茂田井区運営協議会（立科町）	事業タイプ	ソフト事業・ハード事業
連絡先	会長 伊藤宗久 （前副会長 武重賢治） 電話 0267-53-2161	事業費	3,649,616円
		支援金額	2,587,000円